

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	78人	算数	78人	理科	78人
------	----	-----	----	-----	----	-----

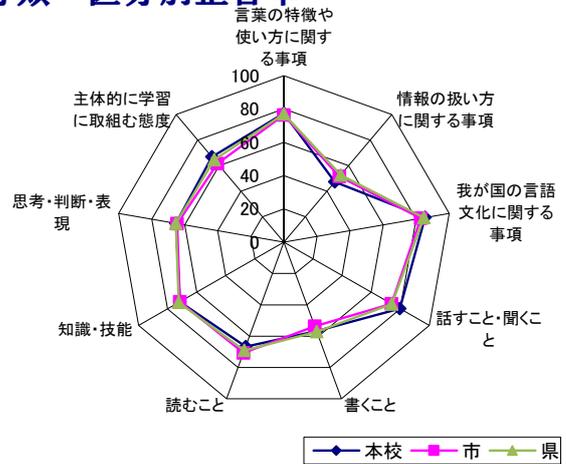
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.4	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	47.2	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	85.4	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	79.7	74.1	74.2
	書くこと	56.7	53.7	57.2
観点	読むこと	66.7	70.7	69.2
	知識・技能	71.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	65.3	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	66.8	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

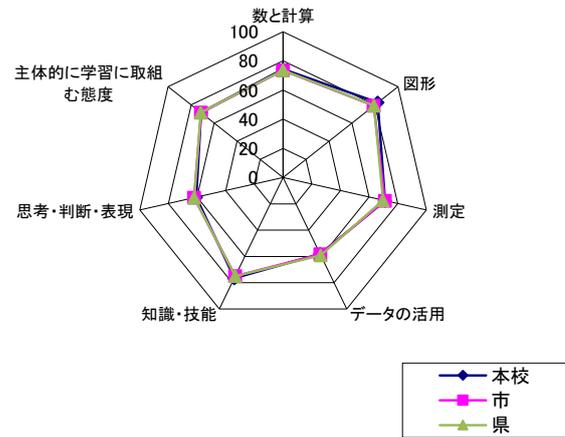
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、77.4%で、市や県と同程度である。 ○漢字の読みの問題において、「都合」では正答率が86.6%で、県より10.3ポイント高くなっている。 ●漢字の読みの問題において、「笛」では正答率が86.6%で、県より7.7ポイント低くなっている。 ○主語・述語の組み合わせを考える問題では、正答率が79.3%で、県より約5ポイント高くなっている。 ●様子や行動を表す語句の正しい使い方の問題では、正答率が82.9%で、県より7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み方の定着のため、音読や読書の推進を図っていく。 ・漢字の書き取りテストだけでなく、読みのテストを行っていく。 ・継続して文法習熟プリントを活用して、主語・述語などの意味や使い方を復習する。 ・語彙力を高めるため、日々の授業の中で、語句の意味を国語辞典を使って確認したり、短文づくりをしたりする活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、47.2%で、市や県より約5ポイント低い。 ○国語辞典の使い方の問題では、正答率が68.3%で県と同程度である。 ●中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が45.1%で、県より約7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の授業において、段落同士の関係や文のつながりに着目させるとともに、文章の中心となる語や文を見つけて、箇条書きで要約することに取り組ませていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は85.4%で、市や県と同程度である。 ○漢字のへんやつくりを理解する問題では、正答率が85.4%で、県と比較して同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習の際は、読み方や書き順のほか、部首やその意味など、多面的に扱うようにする。 ・定期的に既習漢字の書き取り問題に取り組ませ、定着を図る。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は79.7%で、県より5.5ポイント高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、正答率が79.3%で、県より4.7ポイント高くなっている。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、正答率が81.7%で、県より10.5ポイント高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、ただ発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や質問する力、工夫していたことを聞き取る力など、育てたい力を明確にし、活動に取り組ませていくことで、さらに聞く力を高めていく。 ・デジタル教科書の動画コンテンツを活用し、適切な話し方や聞き方、話し合いのモデルを共有する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、56.7%で、県と同程度である。 ○指定された長さで文章を書く問題に関しては、全ての問題で県と同程度である。 ●目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする問題では、正答率が28.0%で、県より7.4ポイント低くなっている。 ●情報と情報の関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にする問題では、正答率が28.0%で、県より6.5ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙において「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことがむずかしい」と回答している児童が6割おり、書くことに対して苦手意識があるため、「条件が付与された問題」に取り組ませ、書くことに対する抵抗感を減少させる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、66.7%と県と同程度である。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が81.7%で、県より約5ポイント高くなっている。 ●叙述を基に段落の内容を捉える問題では、正答率が41.5%で、県より5.2ポイント低くなっている。 ●情報と情報の関係を理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が45.1%で、県より6.9ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文などでは、段落の内容を捉えることができるように、中心となる言葉を用いて小見出しをつけたり、文章全体を要約したりする学習を繰り返し行っていく。 ・短い時間で文章を読むことに慣れさせるために、朝の学習等で類似問題に取り組ませたり、読書の習慣づけを図ったりする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	73.5	73.6
	図形	82.5	79.0	79.1
	測定	71.2	71.1	69.8
	データの活用	58.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.6	75.0	75.0
	思考・判断・表現	60.6	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	71.4	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

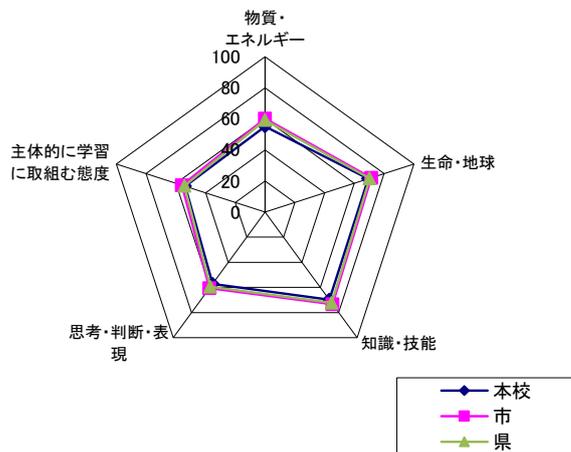
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、74.4%で、県や市と同程度である。 ○分子が1の分数が何個で1になるかを答える問題では、正答率が91.5%で、県より8.8ポイント高くなっている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味を答える問題では、正答率が30.5%で、県より8ポイント低くなっている。 ●余りを切り上げて処理し、その理由を説明する問題では、正答率が54.9%で、県より5.4ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算、わり算ともに、計算できるだけでなく、なぜそのような計算になるのか再度確認し、計算の原理をつかませる。 ・絵や図、線分図を使って説明する授業を常に取り入れ、視覚からの理解と式の意味の理解をつなげていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、82.5%と県や市と同程度である。 ○円の半径について理解しているか答える問題では、正答率が86.6%で、県より10.4ポイント高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、図形の学習では、図形の特徴について確認し、理解を深めた上で、作図する問題に繰り返し取り組ませることで、知識の定着を図る。
測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、71.2%で、県や市と同程度である。 ○1分=60秒の関係を答える問題では、正答率が81.7%で、県より5.4ポイント高くなっている。 ●単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明する問題では、正答率が47.6%で、県の正答率より7.4ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位に関しては、機械的に暗記させるのではなく、単位の意味や原理を理解させる。 ・単位換算を理解できるように、重さについて砂糖など身近なものを教材とし、具体物を用いながら理解を深めさせる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、58.1%で、県や市と同程度である。 ○データの活用に関する問題では、全ての問題で正答率が県と同程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を正確に理解したり、日常の場面に結びつけて思考したりする学習を今後も継続していくことで、データ活用能力をさらに伸ばしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.1	60.2	59.2
	生命・地球	69.3	71.3	70.3
観点	知識・技能	69.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	57.2	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.7	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は55.1%で、市や県と同程度である。 ○物の重さに関する問題については、正答率が54.9%、64.6%、18.3%で、すべて県と同程度である。 ●磁石の極を確かめる方法を構想する問題では、正答率が37.8%で、県より18.1ポイント低くなっている。 ●音の性質に関する問題については、正答率が63.4%、40.2%で、県よりそれぞれ6.2ポイント、10.0ポイント低くなっている。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音の性質」「磁石の性質」についての正答率が大幅に低かったため、単元で、実験結果から考察したことを丁寧におさえることで理解を深めさせるとともに、定期的に復習を行い、確実に知識の定着を図る。 ・用語を覚えるだけでなく、覚えたことを応用した思考ができるように、身近な事例を挙げて学習したことが生かされていることが理解できるように指導していく。 ・実験を行う際、予想や考察、結果のまとめなどの指導を丁寧に行い、内容の定着を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は69.3%と、市や県と同程度である。 ○正午にできる影の方位を理解する問題では、正答率が50.0%と、県よりも9.5ポイント高くなっている。 ○日なたと日陰の地面の温度変化のグラフを読み取る問題では、正答率が80.5%と、県より5.1ポイント高くなっている。 ●方位磁針の正しい使い方を身に付けているかを問う問題では、正答率が54.9%と、県より9.1ポイント低くなっている。 ●完全変態と不完全変態の昆虫を理解する問題では、68.3%で、県より6.7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る。 ・用語を覚えるだけでなく、覚えたことを応用した思考ができるように指導していく。 ・日常生活で体験したことを知識として定着させるために、生活と結び付けた実験、観察の方法や考察を指導する。 ・昆虫の育ち方については、時期や昆虫の種類によっては観察が困難である場合もあるため、写真や動画を活用したり、個人用端末を用いて調べたりしながら知識の定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、8割を超えており、県や市と比べて15ポイント以上高い。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、9割を超えている。学校で学習したことを家庭学習で復習することが習慣化されていることが分かる。学校内で、家庭学習の取り組み方について共通理解を図って実践している成果が表れている。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、8割を超えており、県や市と比べて10ポイント以上高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、8割を超えており、県や市と比べて10ポイント以上高い。学習に対して前向きに取り組み、友達と話し合うことで理解を深めていることが分かる。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、9割を超えており、県や市と比べて6ポイント高い。また、「自分はクラスの人役に立っていると思う」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、県と比べて5ポイント高い。一人一人が仕事に責任をもって取り組んでいることが分かる。今後も引き続き、互いに認め合う機会を設けていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、70.7%であり、県や市と比べて7ポイント低い。また、「新聞を読んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、2割以下であった。授業でニュースを取り上げたり、新聞記事について短作文を書いたりする機会を設け、世の中の出来事に興味を高められるようにしていきたい。